

血糖降下強化療法により虚血性心疾患を抑制

2型糖尿病のある患者において、血糖値上昇は虚血性心疾患のリスクを増大させる。そこで本研究では、血糖降下強化療法により虚血性心疾患のリスクが低下するかについて検討した。

ACCORD 試験に参加した 40~79 歳の 2 型糖尿病患者 10,251 人のデータを分析し評価した。被験者は平均 HbA1c 値 8.3%、虚血性心疾患のリスクを有しており、目標 HbA1c 値 6.0%未満の血糖降下強化療法群または同値 7.0~7.9%の標準療法群にランダムに割り付けられた。試験は死亡の報告が増大したために早期中断となり、全員標準療法に切り替えられた。今回の研究では、試験中止までの介入期間（平均 3.7 年）とその後の追跡期間（平均 1.2 年）を加えた期間における両群の心筋梗塞、冠動脈再建術、不安定狭心症、新たな狭心症の発症について評価した。分析の結果、心筋梗塞の発生頻度は標準的治療群よりも強化療法群のほうが、介入期間、全期間ともに低かった（ハザード比はそれぞれ 0.80、0.84）。同様の所見が、心筋梗塞・冠動脈再建術・不安定狭心症の複合（介入期間のハザード比：0.89、全期間のハザード比 0.87）や追跡期間中における冠動脈再建術単独（ハザード比：0.84）、および不安定狭心症単独（ハザード比：0.81）でもみられた。

したがって、2型糖尿病やその他の心臓血管病のリスク因子を有する中高年において、血糖値上昇は虚血性心疾患の修正可能なリスク因子であることが示された。

出典：Lancet. Published online Aug 1, 2014; doi: 10.1016/S0140-6736(14)60611-5